

2.開会あいさつ

公益社団法人日本道路協会 国際委員長 山川朝生

みなさま、本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私、日本道路協会の国際委員長をしております山川でございます。今日のセミナーについて簡単に紹介させていただきます。今話されましたように国総研、日本道路協会と JTRC という 3 つ共同で開催しておりますが、JTRC は、皆さんあまりご存じない方もいらっしゃると思いますので、少しご紹介をいたします。1969 年に今の JTRC の前身である RTR、Road Transport Research Program、日本語では道路交通研究計画という組織が、OECD の下部組織としてパリに設置されました。そのあと組織改革で名前が変わりましたが、事務局はずっとパリにございます。2004 年から RTR が ECMT、European Conference of Ministers of Transport、欧州の運輸部門の大臣会合の調査部門と統合されまして、OECD と ECMT の共同管轄で JTRC、Joint Transport Research Centre となりました。そのあと、2007 年に ECMT が現在ヨーロッパだけでなく世界全体に広がって ITF、International Transport Forum となりました。従いまして、現在は OECD と ITF の管轄の JTRC という組織になっております。日本は前身の RTR の時代から含めると半世紀にわたって、非常に長い期間、この研究活動に参加をして参りました。この間、道路財源、渋滞対策、交通安全、環境といったさまざまな問題で各国の交通行政担当者と共同の研究を進めて参りました。

この共同研究の報告書が各国の交通問題への取り組みで、大変我が国の行政にも参考になった訳でございます。また研究活動に続いてさまざまな情報を得ることができたことも有益なものでございます。本日のセミナーでございますが、JTRC のなかで温室効果ガスへの対応に対するワーキンググループ (WG) の議長を務めていらっしゃいます、連邦道路庁 FHWA の Wlaschin さんから、アメリカのアセットマネジメントについて発表していただくことになっております。ちょうど先週日曜日、中央高速でトンネルのつり天井落下の事故がありました。車 3 台が巻き込まれて、9 人の方が亡くなるという大変残念な事故でございました。現在、国土交通省では関係機関と協力して事故原因の究明、再発防止対策等について検討を進めていると聞いております。我が国では最初的高速道路が開通して、来年で 50 年になります。構造物の老朽化が最重要課題となっております。今回、アメリカのアセットマネジメントについてお話をしていただくことは、大変意義があるという風に考えております。そのあと当セミナーでは JTRC の自転車交通安全に関する共同研究に関係してコペンハーゲン市交通部から Danielsen 女史、JTRC の事務局から Crist さんに情報提供をいただくことになります。また、交通安全資料に関する共同研究、また道路財源に関するラウンドテーブルの内容に関して JTRC の事務局から Kauppila さんが情報提供していただきま

す。これら海外からの発表者に加えまして、国総研からも道路橋のアセットマネジメントについて玉越室長から、また自転車利用環境の整備に関しまして藪室長から発表をいただきます。また、交通安全に関しましてはWGメンバーであった並河理事からもコメントをいただくことになっております。

ということで、盛りたくさんではございますけれども、このセミナーが有意義なものでありますように、またこのセミナーを開催するに当たって、準備された方々に御礼を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。